

# Indicators Update

2013年8月30日 全4頁

## 7月雇用統計

製造業の就業者数が2ヶ月連続で増加

経済調査部  
エコノミスト 久後 翔太郎

### [要約]

- 2013年7月の完全失業率(季節調整値)は3.8%となり、前月から0.1%pt改善した。就業者数は前月から1万人の増加、失業者数は3万人の減少、非労働力人口は2万人の増加となった。7月の有効求人倍率(季節調整値)は0.94倍となり前月から0.02pt上昇した。内訳を見ると、有効求職者数は2ヶ月連続で前月から減少、有効求人数は10ヶ月連続の増加となった。
- 就業者数(季節調整値)は、前月差+1万人と2ヶ月ぶりの増加となった。内訳を見ると、「卸売業、小売業」では前月差+14万人となった。「製造業」では前月差+13万人と、6月に引き続き大幅に就業者数が増加した。生産が改善を続ける中、製造業では雇用過剰感が解消に向かい、労働需要が高まっている模様。
- 先行きについて、就業者数は増加する見込みである。製造業については、足下で上向いている生産の影響を受け、今後も就業者数は増加が続くと予想している。また、高齢者の増加に伴い、労働需要の高まっている「医療、福祉」についても、就業者数の増加が見込まれる。

図表1：雇用関連指標の推移

		2013年				出所
		4月	5月	6月	7月	
完全失業率(季節調整値)	%	4.1	4.1	3.9	3.8	総務省
有効求人倍率(季節調整値)	倍	0.89	0.90	0.92	0.94	
新規求人倍率(季節調整値)	倍	1.40	1.42	1.49	1.46	
名目賃金指数	現金給与総額	前年比、%	0.0	▲0.1	0.6	厚生労働省
	所定内給与	前年比、%	▲0.2	▲0.4	▲0.6	
労働時間指数	総労働時間	前年比、%	0.1	0.3	▲1.6	
	所定内労働時間	前年比、%	0.0	0.3	▲1.9	
	所定外労働時間	前年比、%	0.9	0.0	2.0	

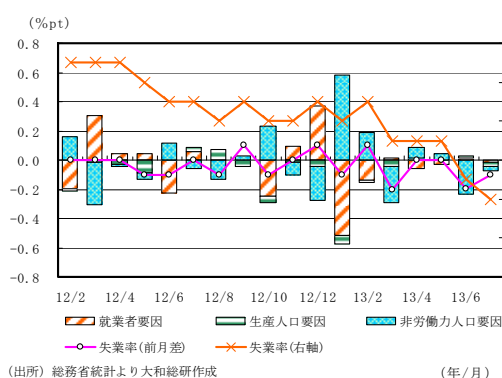
(出所)各種統計より大和総研作成

## 7月完全失業率：前月から0.1%pt改善

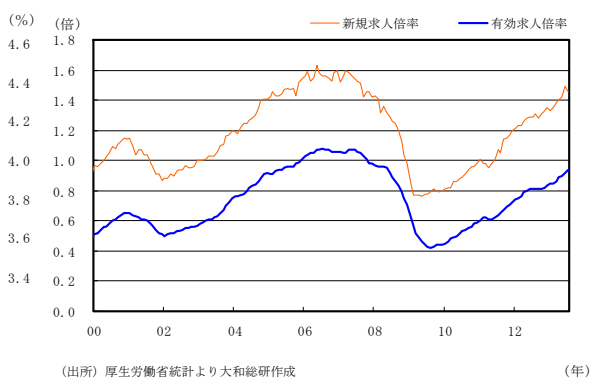
2013年7月の完全失業率(季節調整値)は3.8%となり、前月から0.1%pt改善した。就業者数は前月から1万人の増加、失業者数は同3万人の減少、非労働力人口は同2万人の増加となった。失業率の前月からの変動を要因分解すると、非労働力人口の増加や生産人口の減少が寄与している。

7月の有効求人倍率(季節調整値)は0.94倍となり前月から0.02pt上昇した。内訳を見ると、有効求職者数は2ヶ月連続で前月から減少、有効求人数は10ヶ月連続の増加となった。有効求人倍率に先行する新規求人倍率は1.46倍となり、前月から0.03pt低下した。内訳を見ると、新規求人数は3ヶ月ぶりの減少、新規求職申込件数は2ヶ月ぶりの増加となった。

図表 2-1：失業率の要因分解



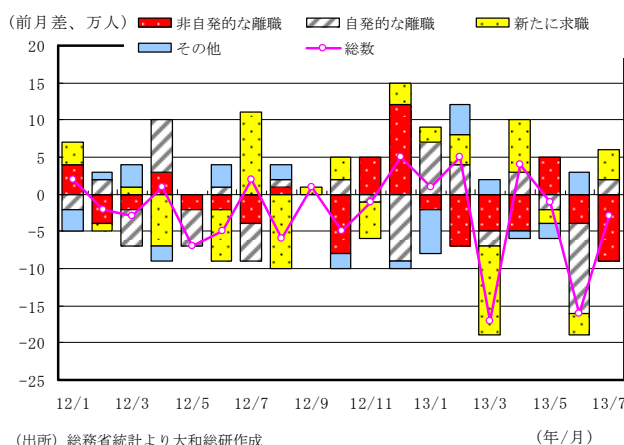
図表 2-2：有効求人倍率と新規求人倍率



## 「非自発的な離職」による失業者は減少

失業者数の減少を求職理由別に見ると、「非自発的な離職」による失業者が前月から減少しており、企業部門に起因する失業は減少傾向にある。足下での企業収益の改善を受けて、企業部門の労働需要は高まっていると考える。労働者側の動向を見ると、「新たに求職」や「自発的な離職」という理由に基づく、失業者数が増加しているが、これは足下での雇用情勢の改善を受けて、積極的に労働移動を行おうとしている結果であると捉えている。

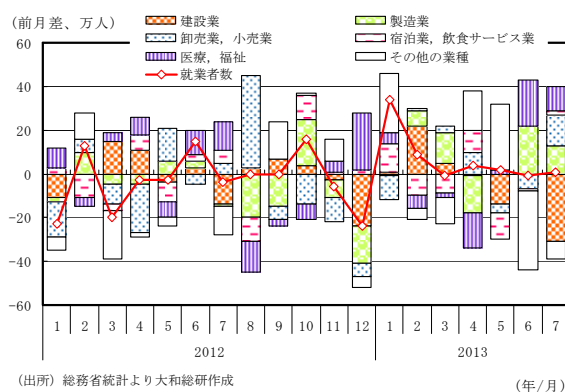
図表 3：求職理由別失業者数の変化



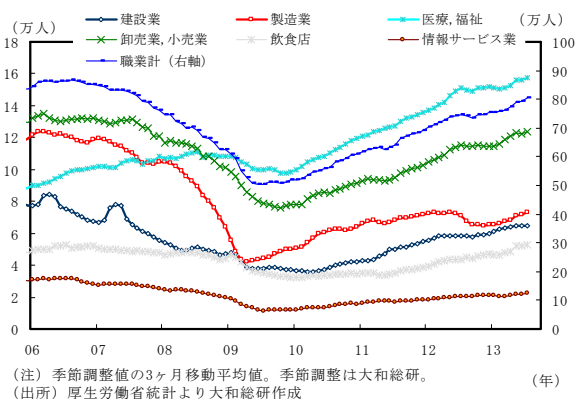
## 業種別の動向：製造業の就業者数が2ヶ月連続で増加

就業者数(季節調整値)は、前月差+1万人と2ヶ月ぶりの増加となった。内訳を見ると、「卸売業、小売業」では前月差+14万人となった。「製造業」の就業者数は前月差+13万人と、前月に引き続き大幅に増加した。生産が改善を続けるなか、製造業では雇用過剰感が解消に向かい、労働需要が高まっている模様。趨勢的に就業者数の増加が続く「医療、福祉」でも、前月差+11万人の増加となった。「医療、福祉」の新規求人数を見ても高い水準を維持しており、引き続き旺盛な労働需要が見込まれる。また、「学術研究、専門・技術サービス業」では、前月差+1万人と4ヶ月連続の増加となった。2012年度補正予算の執行を受けて、建設コンサルタントや測量などの業種で労働需要が高まっている模様。一方、「建設業」での就業者数は前月差▲31万人の減少となった。公共投資の増加に伴い、「建設業」での就業者数の増加が見込まれていたが、依然として減少傾向にあり、ネガティブな内容となっている。

図表 4-1：業種別就業者数



図表 4-2：業種別新規求人数



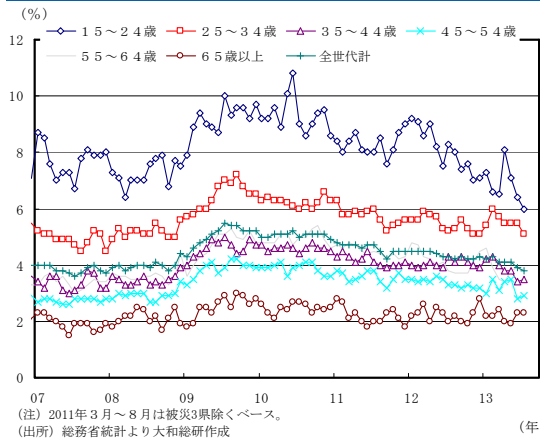
## 雇用情勢は改善が続く見込み

今月の雇用関連統計を総じて見ると、雇用情勢は改善が続いていると判断する。非自発的な失業者数の減少や有効求人数の増加から、企業の採用意欲は高まっていることが確認できる。労働者についても、足下の雇用情勢の改善を受け、積極的に労働移動を行おうという動きが見られる。

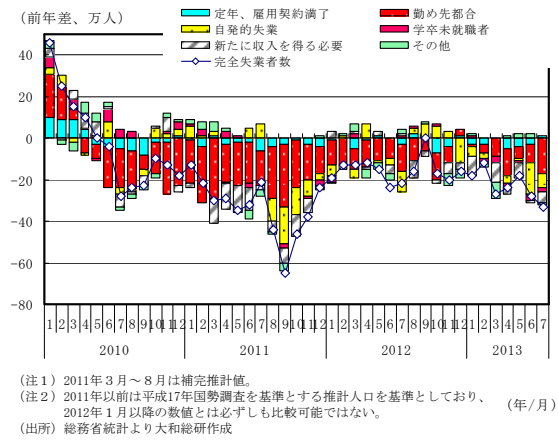
先行きについて、就業者数は増加する見込みである。製造業については、足下で上向いている生産の影響を受け、今後も就業者数は増加が続くと予想している。また、高齢者の増加に伴い、労働需要の高まっている「医療、福祉」についても、就業者数の増加が見込まれる。

雇用・所得概況

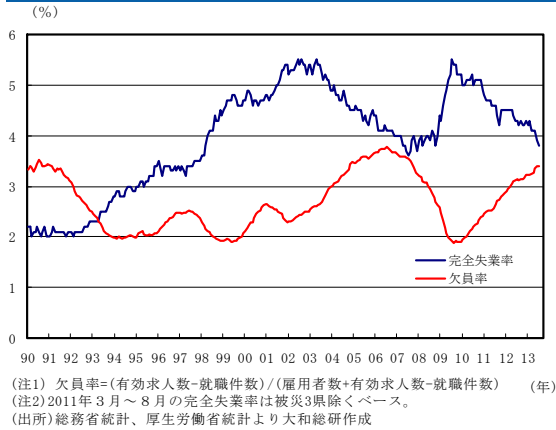
世代別完全失業率



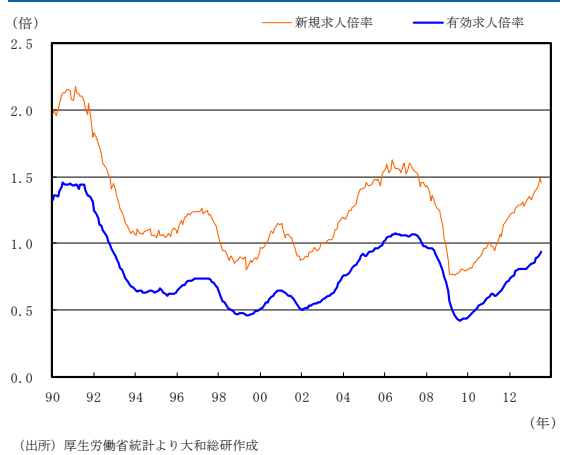
求職理由別失業者数



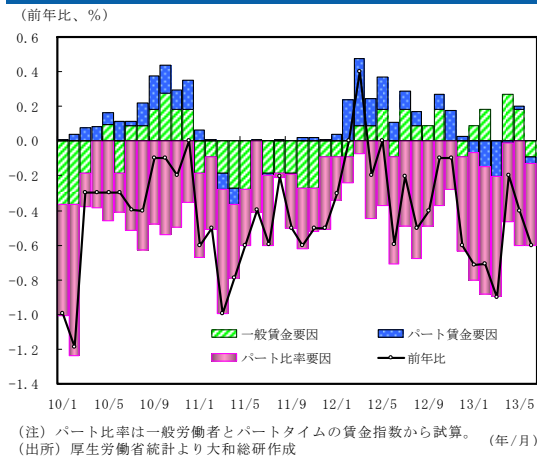
完全失業率と欠員率



有効求人倍率と新規求人倍率



所定内給与の要因分解 (5人以上、全規模)



所定内給与の推移 (5人以上、全規模)

